

# 中富記念くすり博物館だより

企画展 **もくすり** 開幕

展示に関するクイズ企画も開催。  
売薬人の謎を解き明かし、  
記念品をGETしよう！

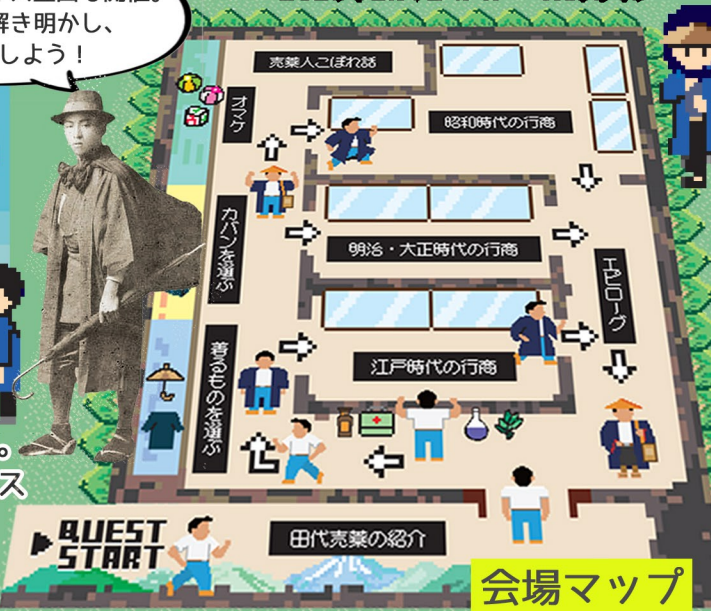
2025年8月1日発行 No. 345



荷車をおして歩いた29日

売薬人たちが語った思い出と道具から見てくる“旅”の全貌。  
何を持ち、どこへ向かい、誰に出会い、何が起こったか。クエスト-大冒険-さながらの彼らの旅を、“旅の相棒”とともにふりかえる。

2025 9月20日(土) 2026 2月1日(日)



## イベント情報

8月

薬研を使って  
カレースパイス作り！



昔のくすり作りの道具「薬研」を使って手作りのカレースパイスを作ります。※今年度の申込みは終了しました

ミニ薬研 (税込：3,300円)

ミュージアム  
ショップ

昔のくすり作りの道具で、生薬をすりつぶす工程で使用されていた「薬研」。ミュージアムショップでは小さな薬研を販売しています。生薬を入れる器部分は岐阜県の伝統工芸である「美濃焼」を使用。器の中にハーブやスパイスなどを入れて木製のローラーですり潰します。お家でも手軽に薬研をつかうことができます。ミキサーではなく薬研ですり潰すことにより電気による熱が伝わらずハーブやスパイスの香りも保つことができます。夏休みの自由研究にもおすすめです。

8月

SAGAものスゴフェスタ11

佐賀県の100をこえる企業が行うワークショップ。  
当館は昔のくすり作りで使われていた「薬研」で  
香り袋を作ります。

[詳しくはこちら](#)

日時：8月23,24日(土,日)  
場所：SAGAアリーナ



ものスゴ公式



イチヤマヘイ陶器

## 薬草美術館 絵画の中の植物をご紹介します

これは17世紀に活躍したイタリアの画家ジョヴァンニ・スタンキによる作品です。画面にはアイリス、キクなどの花々とカボチャ、洋梨、桃などの野菜・果物が並び、右手前にはナイフで切られた「スイカ」が描かれています。その切り口に注目すると果肉が少なく全体的に「白い」見た目をしています。スイカは赤い色を持つ遺伝子と糖度を決定する遺伝子がペアになっています。つまり果肉が赤ければ赤いほど甘いスイカができます。現在市場に流通する全体に果肉が詰まった甘く「赤い」スイカは、人々が美味しさを求め長い歴史を経た品種改良により生まれました。作品が描かれた17世紀ヨーロッパのスイカはどのような味がするのでしょうか？

私たちは当時の絵画から想像することしかできません。



ジョヴァンニ・スタンキ《風景の中のスイカ、モモ、ナシその他の果物》  
17世紀、クリスティーズ公式サイトより(所蔵不明)